
＊ [ニュースレター](#) ＊

2002年8月号より



[学術大会とセミナーで会いましょう](#)

日本歯科審美学会長
石橋寛二

[第13回日本歯科審美学会学術大会のご案内](#)

[セミナーのご案内](#)

第4回セミナー「審美歯科における欠損部補綴」



[白くきれいな歯 広島フォーラム](#)

美しい笑顔のために

広島大学大学院医歯薬学総合研究科

顎口腔頸部医科学講座（保存修復学研究室） 新谷英章



[第7回アジア歯科審美学会大会](#)

広報委員会 黒田康子

[委員会報告](#)

| [Back](#) |



2002年8月号より



学術大会とセミナーで会いましょう

日本歯科審美学会長

石橋寛二

健康で快適な生活を求める現代人のライフスタイルが歯科医療に新しい流れを求めました。それが歯科審美であり、顎口腔における形態美・色彩美・機能美の調和をはかり、人々の幸福に貢献する歯科医療の分野として位置づけることができます。

この視点から、私は本学会の目標を、会員にとってわかりやすく価値ある生きた情報交換の場としての学会活動を続け、歯科審美を体系化された領域として確立し、そして歯科審美への正しい認識を社会に広めることにあると考えました。

そのための行動として先ず第1に言えることは、学会は学会員による学会員のための組織ですから、学術大会の場と学会誌上での新鮮な出会いが明日の臨床と研究に向けて活力を生み、勇気づけられるような学会を運営していかなければなりません。社会状況と患者さんの意識の変化を注視しつつ、会員が最も知りたい情報を提示する学術大会、学会誌として歩みたいと思います。また、時宜にかなった情報を提供するためには国際交流も重要で、本学会の立場を明確にした活動を展開する必要があります。第2に、歯科審美を体系化された領域として確立し、教育への導入を推進することが求められます。岩久前学会長の下で作成された歯科審美学教授要綱を、学会員の声で育てていく責務があります。第3に、学会員が歯科審美について正しい認識を持つと同時に、新しいライフスタイルの確立に貢献する歯科審美として広く社会に定着するものでなければなりません。昨年から実施したセミナーの継続と広報活動の推進がそれを裏づけていくことになるでしょう。

明日へのエネルギーを生む学会として歩み続けるために、多くの会員が学術大会とセミナーの場に集い、活発に交流していただけますようお願い申し上げます。



2002年8月号より

第13回日本歯科審美学会学術大会ご案内

第13回学術大会を下記のとおり開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

【大会長】 田上順次

【会 期】 平成14年11月16日（土）、17日（日）

【会 場】 学術総合センター

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

営団地下鉄半蔵門線／都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A8,9出口 営団地下鉄東西線「竹橋」1b出口徒歩3～5分

【メインテーマ】

「わざと叡智の邂逅：The Art and Science of Esthetic Dentistry」

【学会内容】

会長講演「歯科審美学への道」石橋寛二（岩手医大・歯・補綴）

特別講演「The Art and Science of Esthetic Composite Restoration（仮題）」

Bernd Klaiber（Wurzburg University, Germany）

教育講演

「リハビリメイクと歯科治療」かづきれいこ（フェイシャルセラピスト）

「審美歯科と医療経済（仮題）」川淵孝一（東医歯大・院・医療経済）

「ホームブリーチングの臨床と今後の課題」永井茂之（永井歯科診療室）

シンポジウム「歯科審美教授要綱をいかに活用すべきか」

一般発表（ポスター発表）「器材展示とテーブルクリニック」

【会員懇親会】

日時：平成14年11月16日（土）学術大会1日目終了後

場所：如水会館（学会場の隣です）参加費：10,000円

学会誌綴じ込みの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、事前登録費、懇親会参加費を平成14年9月20日までに、ご送金ください。通信欄には参加登録される方の個人名（フルネーム）をご記入ください。正会員の事前登録は平成14年度の年会費を収めた方に限ります。平成14年9月21日以降は、当日登録扱いとなります。当日会費の返金はいたしません。

【事前登録費】

正会員A・B 9,000円 正会員C 4,000円

非会員・歯科医師15,000円 非会員・歯科医師以外 7,000円

学 生 3,000円 (平成14年9月20日まで)

【照会先】

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科

摂食機能保存学講座 う触制御学分野内

第13回日本歯科審美学会学術大会事務局 準備委員長 大槻昌幸

TEL.03-5803-5483 FAX.03-5803-0195

E-mail : otsuki.ope@tmd.ac.jp

| [Back](#) |



2002年8月号より

セミナーのご案内

新世紀の審美を拓く

審美歯科は今や広く一般国民にも広まりつつあり、そのニーズは大きくクローズアップされ、色や形の美の追求から健康美へと幅広く発展しています。このような背景をもとに、この分野の第一人者による、日本歯科審美学会ならではの講師陣による臨床を主体としたセミナーとシンポジウムを企画いたしました。

奮ってご参加ください。

(委員長 佐藤 孝)

第4回セミナー「審美歯科における欠損部補綴」

【日 時】平成14年11月23日（土・祝）午前10：00～午後4：30

【場 所】

大阪国際交流センター
大阪市天王寺区上本町8-2-6
TEL：06-6772-6729

【コーディネーター：本多正明（東大阪市）】

「審美補綴を成功させるためのガイドライン」 木原敏裕（生駒市）

「審美補綴におけるインプラントと審美性」 西堀雅一（東京都）

「審美性を考慮した顎堤とポンティックの関係」 茂野啓示（京都市）

「高齢者の無歯顎補綴」

—総義歯の審美を決める咬合高径と唇頬面の設計— 深水皓三（東京都）

—顔貌を決める要素とは— 堤 嵩詞（PTDLABO）

【次回予告】

第5回 審美歯科における歯周組織へのアプローチ

●日時／平成15年1月13日（月・祝）東京 午前10：00～午後4：30

●申込及び問い合わせ先／〒107-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

（財）口腔保健協会内 日本歯科審美学会セミナー委員会事務局

セミナー申込係

TEL：03-3947-8891 FAX：03-3947-8341



2002年8月号より



白くきれいな歯 広島フォーラム

美しい笑顔のために

広島大学大学院医歯薬学総合研究科

顎口腔頸部医科学講座（保存修復学研究室） 新谷英章

平成14年度歯の衛生週間のさなか（平成14年6月8日）に、私どもの教室を中心として広島県歯科医師会と日本歯科保存学会の協力のもと標記の市民フォーラムが開催され、300名近くの参加者があり盛会となりました。

フォーラムは、新潟大学大学院・岩久正明教授の「変色歯の原因と患者さんの心理」というテーマによる講演で幕を開け、続いて九州歯科大学・寺下正道教授による「歯を白くする方法（ホワイトニング）」、そして私が「セラミックスなどを用いて歯の色や形をきれいにする方法」と3題講演を行いました。次いで、昭和大学歯学部在学中の2001年度ミス日本グランプリ・野手るりこさんのトークショーを挿んで、3人の演者によるパネルディスカッションを行い、患者さんの心理的問題が多くを占める変色歯の治療法について症例を供覧しながらお話し、参加者と討論を行いました。

このフォーラムは、質の高い歯科審美への国民の要望が今後ますます高まると予想される現在、市民に学術情報を提供し啓蒙活動を行うという目的のもとに開催されました。その他に、市民、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の歯科審美への関心度を計ると共に、来年度（平成15年度）当教室がお世話させていただきます学術大会を視野に入れてのフォーラム開催でした。白い歯、美しい笑顔に対する関心は予想以上に高いようで、今後、会員の皆様のご協力も仰ぎながら来年度の学術大会を意義あるものにできればと思っています。よろしく願い申し上げます。



2002年8月号より

**第7回アジア歯科審美学会大会**

広報委員会 黒田康子

基調講演の
石橋会長・桑田副会長

7月6・7日の両日、Dr.Seok-Hoon Ko大会長のもとにソウルの教育文化会館で開催されました。ソウル市街地から少し南の閑静な地域にあるすばらしい会場でしたが、それにも増して、韓国の審美歯科学会の活気あふれる雰囲気にも圧倒されました。事務局Dr.Kimのお話では参加登録は約950人、日本をはじめアジア各国からは200人余りとのことで、基調講演のころには大きなホールが満席でした。初日の午前中は、千田彰教授をはじめとする各国からのInvited Speakerによる講演が2会場に分かれて行われ、大変活況でした。

午後は基調講演に先立って、永年審美歯科界で貢献されてきた韓国のJae-Hyun Lee先生と日本の桑田正博先生に対して感謝の意を表す式典が挙行され、メダルと万雷の拍手が贈られ、お二人の晴れやかな笑顔は今回のアジア審美学会の成功そのものでありました。IFEDの会長Dr.Philip Gallonの年配のマダムを生き生きと若返えらせるセラミックを中心にした技術、AACD会長のDr.Wynn Okudaの若く美しいレディーを次々にミス〇〇に送り出す、相変わらずの超すばらしいコンポジットレジン修復、USAのDr.Thomas J.HanのImplantや歯周治療の手技をビデオで公開された講演と午後の基調講演は聴衆を魅了しました。

2日目の基調講演は、まず石橋会長が、個々の歯の色調を科学的に分析し表現する最新のColor Matching Methodologyを中心に講演され、勘に頼らず色調を再現できる日が近いことを示されました。桑田先生はセラミック修復でいかに天然歯を再現するかについて様々な観点から話され、患者が満足する美しく機能的にも優れた咬合を再構成するためには、歯科医師、歯科技工士の連携が大変重要であることを強調されました。さらに、悲惨な修復物が口腔内に溢れる成人反対咬合患者について、包括治療による見事な治療結果と長期の安定性を提示され、「私たちはひとりの人の人生を薔薇色に変えることもできる素晴らしい仕事に携わっているのである」と締めくくられました。まさにこの言葉は、審美歯科に携わるものにとっての励ましであり、心の糧であると思いました。このあと学会はImplantについてのsession が午後にかけて続きました。また、大学所属の先生方が沢山の優秀なポスター発表をされ、大会に華を添えられたことを付記いたします。

本会副会長松尾通先生が大会に先立つ理事会で次期会長に選ばれ、2004年に日本でアジア審美歯科学会が開催されます。アジアの仲間の期待に答えるべく、今大会にも増して活気に満ちた、かつ友好的な大会となるよう松尾大会長のもとに日本歯科審美学会の総力を挙げて会を成功させなければなりません。会員の皆様のご協力をお願いいたします。



写真左より、Gallon IFED会長、
桑田先生御夫妻、李先生御夫妻、
高大会長



KOREAN HOUSEでのレセプション

| [Back](#) |



2002年8月号より

委員会報告

学術委員会

1. 今期学術委員会（平成14年4月1日～平成16年3月31日）は以下のメンバーです。

委員長：木村幸平

委員：市川哲雄、東光照夫、大槻昌幸、富士谷盛興（大学関係）、細田幸平、安田登（開業・勤務医）、妹尾輝明（技工士）、古田喜代子（衛生士）、浅田雅之（クラレメディカル）

幹事：依田正信

（敬称略）

委員に加え、オブザーバーとして佐藤孝セミナー委員長、長岡英一編集委員長、黒田康子広報委員長にも適宜ご参加頂き、活動して行く所存です。

2. 第1回委員会は、6月13日石橋寛二学会長に御出席頂き、以下の活動方針を確認致しました。

1. 学術委員会としての所掌事項の整理
2. 各種表彰制度の性格付けと運営
3. 学会の活性化に向けての具体策
4. 学術に関する会長方針の具体化

3. 第12回学術大会各種受表彰者（第13回学術大会で表彰予定）は以下の通りです。

1. 学会優秀発表賞：研究報告 福島正義氏ほか
臨床報告 小林久純氏ほか
2. デンツプライ賞：諏訪 裕彦氏ほか
なお、11回学術大会デンツプライ賞の桑原栄氏は12回大会で表彰されました。

4. 第14回学術大会の予定は下記のとおりです。

- 【会期】：平成15年11月1日（土）、2日（日）
【会場】：広島国際会議場
【大会長】：新谷英章教授（広島大学）

（委員長 木村幸平）

編集委員会

新編集委員会がスタートしました。メンバー（50音順、敬称略）は、伊東隆利（新）、渋谷耕司（新）、新海航一（留：前幹事、副委員長）、末瀬一彦（新）、寺田善博（新）、長岡英一（新、委員長）、濱野徹（新、幹事）、日野浦光（留）、森田修一（留）、山本克之（留）および事務局の片桐淳と藤井隆です。加藤喜郎前委員長はじめ任を全うされた先生方（近藤悦子、齋藤文明、奈良陽一郎、久光久、桃井保子）には、15巻1号を無事発行できる運びになったことへの謝意とこれまでのご尽力への敬意を表します。

第1回編集委員会では全員参加のもと、基本的にこれまでの編集方針を踏襲しつつ、掲載論文の質と量を一定水準に維持する方法を検討することにしました。特に、講演論文の取り扱いとして、投稿者にとって重大問題であるpriorityの明確化、論文原稿未投稿の旨を付記した事前抄録との差別化を重点課題とし、他の学会誌なども参考にして、掲載区分（速報、短報など）の見直しを図る予定です。しかし、講演論文には、体裁を整えれば、立派な臨床論文になるものがあります。ぜひ、臨床論文として仕上げて下さるようお願い申し上げます。変革期にある大学の教育カリキュラムへの歯科審美学の取り込み、審美歯科診療でのEBDの実践、これらに本学会の機関誌「歯科審美」が果たす役割は大きく、本誌の充実のため、皆様のなお一層のご活躍とご協力をお願い申し上げます。

（委員長 長岡英一）

認定審議会

平成14年度第1回認定審議会は、5月13日（月）東京グリーンホテル水道橋にて開催され、主に第11期認定医申請者3名の書類審査を行った。全員「可」と判定され、認定医試験の実施通知を発送することとなった。

第2回認定審議会ならびに第11期認定医試験は、7月26日（金）に上記と同じホテルで開催した。3名の受験者があり、1人平均45分間かけて、症例提示ならびに口頭試問が行われ、審査の結果3名全員が合格と判定された。

- ・近藤悦子氏（歯科矯正・近藤デンタルオフィス）
- ・山口龍司氏（日本歯科大学新潟歯学部歯科保存学第2講座）
- ・若林一道氏（大阪大学歯学部付属病院顎関節・咬合科）

の3名が合格され「日本歯科審美学会認定医」登録者は合計58名となった。

第12期（平成14年度秋期）認定医申請受付期間は、10月7日（月）～11月8日（金）必着ですので、ぜひとも多数の方々の申請をお待ちしています。

なお申請および更新申請書は、簡易書留で郵送して下さい。

（委員長 加藤喜郎）

国際渉外委員会

国際レベルの審美歯科発展のために

本学会は発足当初から、積極的にアジア、欧米の審美歯科を中心に活躍する臨床家らと交流を重ね、アジア歯科審美学会（AAAD）、国際歯科審美学会（IFED）の創立メンバー学会ともなっ

た。そして現在、これらの学会をはじめとする国際学会などと組織的な交流をさらに広げている。「歯科審美」をテーマとした国際交流は、単に関係者の親睦のみを目的とするものでなく、「世界のあらゆる人々の健康と幸福に貢献する」という大きな目的をもつものである。この趣意に理解頂き、本委員会活動や以下の国際学会への参加などに一層の協力をお願いする次第である。

第3回IFED大会がきたる10月2日から5日までワシントンDCに隣接するバージニア州アーリントン、Hyatt Regency Crystal Cityにおいて開催される。この大会は周知の通り、アメリカ同時多発テロ事件により1年延期されたものである。日程、内容は今年の予定にほぼ基づいていて、参加登録やポスター発表についても今年のものが持ち越されている（個々に確認されたい）。また本学会からの公式演者は筒井、石島両氏で、各々International Showcaseセッションで講演される。この学会の詳細はIFEDのホームページ（<http://www.ifed.org>）に掲載されているのでぜひ参加頂きたい。

AAAD学術大会ソウル大会が成功裏に終了し、新役員人事も決定した（写真）。詳細は別に報告されるが、2003年には理事会を、2004年には隔年大会を松尾AAAD新会長のもと、日本で開催する。

国内で「審美」について国際的な交流ができる絶好の機会である。会員の理解、協力と参加をお願いしたい。



AAADソウル大会レセプションでの役員ら

（委員長 千田 彰）

広報委員会

石橋会長のご発案で広報委員会が新たに発足し、ニュースレターの発行とホームページの管理運営に当たることになりました。ニュースレターは1991年に当時の編集委員長橋口綽徳先生のご努力により1号が発刊されて以来途絶えていましたが、新しい情報をより早く会員にお届けするという目的で、加藤喜郎前編集委員長により復活され、編集委員会の担当として2000年3月の第2号以来、年2回発行されてきました。また、ホームページは松尾通現副会長が数年前からお一人でご担当いただき、会員ならびに歯科審美に興味をもつ歯科医に情報を提供されてきました。この度、この2つの事業を統合し、学会員の皆様に歯科審美学会の活動を十分にご理解いただくこと、審美歯科が健康で快適な生活を求める現代人のライフスタイルに貢献する歯科医療であることを社会にアピールすることを目的として、広報委員会が設置されました。

審美歯科の正しい共通認識を学会員が持ち、これを広く社会に伝えることは大変重要です。広報委員会では、ニュースレターは学会の活動を会員にお知らせすることを目標として編集し、ホームページはこれに加えて、審美歯科の正しい認識を社会一般に伝えることを目標に順次改定してゆく予定です。また、会員の皆様の意見交換の場としてもご活用いただきたいと思いますので、事務局広報委員会宛にご意見をお寄せください。

広報委員は、猪苗代雅俊（仙台市）、塩山司（岩手医大綴）、武田英司・橋場千織（東京都）、

星野睦代（昭和大保存）、宮内修平（大阪市）、黒田康子（豊中市）の7名です。不慣れですが、精一杯努力いたしますので、よろしく願いいたします。

日本歯科審美学会ホームページ (<http://www.jdshinbi.net/>)

| [Back](#) |